

CONTENTS

刊行ごあいさつ	2
糖尿病を怖い病気でなくする	学長 山本 博 6
育児支援と多文化共生によるD&I	副学長(教育担当)・国際交流センター長 志村 恵 7
流体の運動が熱・物質の移動を決める	副学長(研究担当)兼サステイナブルシステム科学研究科長・教授 木村 繁男 8

生産システム科学部 | 生産システム科学科 | Faculty of Production Systems Engineering and Sciences Department of Production Systems Engineering and Sciences

知識をより良く共有・活用できるシステム構築を	上田 芳弘 9
スポーツ用高性能マシンの研究開発	酒井 忍 10
熱流体分野からエネルギー産業への貢献を目指す	歌野原陽一 11
熱流体デバイスの高性能化を目指して	大西 元 12
ものを作って試して測って壊す	香川 博之 13
やわらかい材料の界面をみる, つくる, いかす	粕谷 素洋 14
作業者と工場にやさしい産業機械を開発する	上野 祐亮 15
分布系形状最適設計手法の開発	史 金星 16
加工技術はものづくりの基本	細川 晃 17
金属製品・部品の形状と特性を制御する	朴 亨原 18
現場を変えたい	舟瀬 真一 19
メカトロニクス機器の開発と制御	疋津 正利 20
センサ・フュージョン, 運動力学解析による新情報の創出	廣瀬 圭 21
磁性材料を用いたエネルギー・通信応用技術	池田 慎治 22
自然の中の“電気”を見るセンサーの開発	山下 幸三 23
人工知能によるココロの理解と産業への応用	梶原 祐輔 24
価値ある情報を価値ある形で提供	坂本 一磨 25
複雑なシステムに隠された単純な数理を探して	村山 立人 26
コミュニケーションと脳の不思議に述語的統一で迫る	藤原 正幸 27
カオス理論を光デバイス研究に応用	篠原 晋 28
量子ウォーク/量子の世界の酔っ払いの数理	鈴木 章斗 29

保健医療学部 | 看護学科 | Faculty of Health Sciences Department of Nursing

その人らしく生きることを支える	徳田真由美 30
スキンケアを通してがん患者の生活をいきいきと	松井 優子 31
喘息の子どもにより運動と環境を考え中	高木 祐介 32
医療分野で起こる感染症を、看護実践で最小限にしたい	伊藤 道子 33
足のむくみに苦しむ多くの人たちを救いたい!	上田 映美 34
睡眠について	加藤 千夏 35
リンパ浮腫のセルフケアをお手伝いしたい	鈴木由依子 36
その人のストレンクス(つよみ)に注目	片山 美穂 37
認知リハビリテーションで多くの人を支えたい!	相上 律子 38
見えなかったものを「見える」化し、我慢させない	木森 佳子 39
重症患者の声なき声に応えたい	山田奈津子 40
人の手の力と人との絆をケアに	小泉 由美 41
「食べて、笑って、自分らしく老いる」を支える	誉田 恵理 42
高齢者の望む「自分らしい生活」を叶える	津田 裕子 43
すべての子どもたちに良好な睡眠を	小田 梓 44
発達に特性のある子どもとその家族の支援者になる	前田 朱美 45
女性と母子の健育づくり・食育をお手伝いします	坂本めぐみ 46
妊婦健康診査実習をルーブリックで学びやすく	山田 貴代 47
妊産褥婦と子ども、家族の幸せのお手伝い	久司留理子 48
支援のユニバーサルデザインを目指して	彦 聖美 49
「地域で自分らしく暮らす」を支えたい	矢口 和美 50

保健師の「困った」や地域の健康を共に考えたい！	中田 明恵	51
幸せになるための健康管理	池田美智子	52
データと“健康”を結びつける	塚谷 才弘	53

保健医療学部 | 臨床工学科 | Faculty of Health Sciences Department of Clinical Engineering

世界初の医療機器を作りたい	山岡 哲二	54
脳病態の解明に機能と形態の融合で迫る	北浦 弘樹	55
「解剖学」を追究したい	仲田 浩規	56
人工知能は人を超える	藤田 一寿	57
画像解析技術による医療支援	井澤 純子	58
光で開拓する未来の医療	山岡 禎久	59
後にきっと助かる、高齢者に対するヘルスケアと医療支援システムの研究開発	李 鍾昊	60
脳波を使った新しいリハビリ機器を目指して	橋本 泰成	61
健康増進のための技術・研究開発	野川 雅道	62
先天性心疾患治療を目指す未来の人工臓器研究	山田 昭博	63
臨床工学領域研究の成果による医療安全への貢献	佐藤 宜伯	64
より簡便な「測れる」の実現を目指して	鈴木 郁斗	65

国際文化交流学部 | 国際文化交流学科 | Faculty of Intercultural Communication Department of Intercultural Communication

言語を社会との関係で捉える研究	岡村 徹	66
自分たちの「あたりまえ」が外から操作され勝手に語られる？	杓谷 茂樹	67
映画で理解するアメリカ文化・アメリカ先住民の歴史	小原 文衛	68
地域の観光は地域がつくる	中子富貴子	69
文化を基盤とした真に豊かな社会を築くために	朝倉 由希	70
Regional Advantage in a Global Economy	清 剛治	71
変化する環境の中で、幸せな生活を送るために	木村 誠	72
スポーツツーリズムは街に魅力的なイメージを与える	陳 慶光	73
日本海地域からアジアと世界の激動を理解する	鍾 以江	74
民主化と今日の王権の位相	西島 薫	75
人の国際移動からグローバル化時代の諸問題を考える	望月 葵	76
国際貿易の視点から世界を俯瞰する！	一ノ渡忠之	77
日本文学の「古典」を書いてあるとおりに読む	西村 聡	78
日英対照から見えてくることばの世界	長辻 幸	79
効果的な言語学習方法を多様なアプローチで探求	島内 俊彦	80
Understanding the Encounter with the International Other	デニス・ハーモン	81
昔の人は漢字をどのように読んでいたか	橋本 貴子	82
他者視点の地域文学研究	鄭 小翔	83
「テキスト」を軸とした基礎研究・応用研究	単 艾婷	84

大学院 | サステイナブルシステム科学研究科 | Graduate school of Sustainable System Science

目指すは、まちづくりのハード・ソフトの融合研究	高山 純一	85
「持続可能性」の哲学的基礎付け	盛永審一郎	86
マヤ文明遺跡の発掘調査を通して古代文明の謎に挑む	中村 誠一	87
マヤ文明圏の南東端から往時の地域間交流を考える	小川 雅洋	88

研究者氏名索引		89
---------	--	----

刊行ごあいさつ

公立小松大学 学長 山本 博

公立小松大学専任教員全員の経歴と専門分野および研究アクティビティを紹介する「研究シーズ集・研究者要覧」第6集をお届けします。

本冊子によって、公立小松大学がどのような人的知的資源を擁するかをご理解いただき、技術相談、シーズ・ニーズマッチング、共同研究といった産官学金民言連携の創出・発展や、専門分野や機関・地域の垣根を超えたコラボレーションが促進されるところとなれば、幸いです。

生化学者アーサー・コーンバーグ¹⁾は、「発明は必要の母」といいました。発明・発見は、新しい製品、市場、産業、雇用を生み出しうるからです。そう遠くない将来、公立小松大学の研究や社会連携から、そのようなイノベーションが生まれることを希っております。

本学は、工学系、医系、文系の3学部4学科と、それらに接続し分野横断的な教育研究を行う1研究科3専攻を擁する総合大学です。産官学連携やコラボレーション、そしてイノベーションは理系からも文系からも生まれます。米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校でなされた、学習障害のある子どものための学習システムの開発と起業化²⁾は、文理融合の成功例として有名です。

基礎研究も重要です。プリンストン高等研究所を開設したエイブラハム・フレクスナー³⁾は、フアラデー、マクスウェル、アインシュタインらを例に挙げ、usefulness(効用)を意識することなく、素朴なcuriosity(好奇心)から発した研究が如何に大きな恩恵を人類にもたらしたかを強調しています。大学は、地道な基盤的な研究も気長に支援し、未来を創造する仕事と人を育てて行かねばなりません。それが、私たちの国日本を活性化する道でもあると思います。

参考文献

- 1) アーサー・コーンバーグ『輝く二重らせん—バイオテクベンチャーの誕生』
メディカル・サイエンス・インターナショナル社、1997年
- 2) 渡部俊也、隅藏康一『TLOとライセンス・アソシエート』(株)ビーケーシー、2002年
- 3) Abraham Flexner, Robert Dijkgraaf “The Usefulness of Useless Knowledge”,
Princeton University Press, 2017

未来のものづくりを担うエンジニアへ

生産システム学部 生産システム科学科



機械工学を柱として、情報工学、電気・電子工学など、「ものづくり」に必要な専門知識・技術を身につけます。科学技術の進歩をキャッチアップできる人材を育成します。

少人数制によるプロフェッショナルの育成

保健医療学部 看護学科



看護師は、病院にとどまらず、地域の人々の人生・健康を支える存在として活躍が期待されています。心身の痛みに寄り添い、包括ケア全般を担うことができる人材を育成します。

国際視野から地域貢献を目指す人文科学系総合学部

国際文化交流学部 国際文化交流学科



観光、地域社会、国際社会、国際文化の4つの学びの領域で、国際社会と地域社会に関する洞察力と豊かな感性、自己表現力を持ち、世界で活躍できる人材の育成を目指します。

最先端医療と地域医療に貢献する

保健医療学部 臨床工学科



国公立大学初の臨床工学科として高度化する医療技術に即応して最先端技術と地域医療に貢献し、臨床工学と医学の未来を切り開く人材を育成します。

1研究科3専攻で分野横断的な研究を行う

大学院サステイナブルシステム科学研究科

生産システム科学専攻・ヘルスケアシステム科学専攻・グローバル文化学専攻

本学が有する工・文・医系の全アクティビティを結集、連携させ、持続可能な目標達成に向けての課題の相互関連性の認識と統合的な解決への意識を共有し、専攻の垣根を超えた連帯と協働で教育研究を行います。今後の地域・国際社会のサステイナビリティ(持続可能性)とその実現につながるシステム構築を担う人材育成を目指します。



中央キャンパス

〒923-0921 石川県小松市土居原町10番地10
TEL:0761-23-6600 FAX:0761-48-3248

アクセス▶ 小松駅から徒歩1分

※小松駅前 こまつアズスクエア2・3階



末広キャンパス

〒923-0961 石川県小松市向本折町へ14番地1
TEL:0761-41-6800 FAX:0761-48-3232

アクセス▶ 小松駅から小松バス市内循環線で「小松市民病院」下車(所要時間約6分)徒歩3分、小松駅から徒歩約23分

※南加賀地域の広域医療の拠点である小松市民病院に隣接



粟津キャンパス

〒923-8511 石川県小松市四丁町又1番地3
TEL:0761-41-6700 FAX:0761-44-3506

アクセス▶ IR粟津駅から徒歩約12分

※南加賀地域のものづくり集積地の中心に位置



地域連携推進センターについて

公立小松大学地域連携推進センターは、本学の地域連携活動の窓口として、産官学連携活動を支援しています。大学の有する人的資源や知的資産、施設などを活用し、地域における人材育成やイノベーションの創出、産業の発展、地域医療の向上、国際化の進展に向けた取り組みを進めています。

1 地域課題の解決に向けて

共同研究、受託研究等のご相談

大学と共同研究をしたい、大学の研究成果を知りたい、技術課題の解決に協力してほしいなど、産官学連携全般および共同研究・技術相談等のご相談に応じます。産官学連携担当特任教授がご相談を伺い、最適な研究者をご紹介します、研究開発プロジェクトの実施を支援します。

共同研究	<ul style="list-style-type: none">● 本学において企業等から研究経費等を受け入れ、本学の研究者が企業等の研究者と共通の課題について共同で研究を行います。● 本学及び企業等において共通の課題について分担して研究を行います。
受託研究	<ul style="list-style-type: none">● 企業等(委託者)から委託を受けた研究課題について、本学の研究者が研究を行い、研究成果を委託者に報告します。
その他	<ul style="list-style-type: none">● 審議会、委員会の委員の委嘱● 研修会、研究会、勉強会の講師依頼● 各種事業のアドバイザーの委嘱 など

シーズ・ニーズマッチングシンポジウム

研究シーズ(種)とは、将来に可能性を秘めた研究・技術を意味します。大学の研究シーズを広く地域に公開し、地域のニーズと結び、委託研究や共同研究、地域の課題解決などにつなげていくことを目指して定期的にシンポジウムを開催しています。シンポジウムでは、教員の研究発表や意見交換などを行います。

また、学生による卒業研究の中間報告(ポスターセッション)を中心としたシンポジウムも開催しています。学科の特色ある研究内容を紹介するとともに、地域のものづくり産業への貢献について触れる機会としています。



技術相談、共同研究などの相談は、
ホームページの問い合わせフォームから
お気軽にどうぞ。

地域連携推進センター 問い合わせフォーム

[ホーム](#) » [大学案内](#) » [附属施設](#) »

[地域連携推進センター](#) » [技術相談・その他ご相談](#)



教員の研究内容、研究シーズは、
ホームページからもご確認いただけます。

研究シーズ集・研究者要覧

[ホーム](#) » [研究・産官学連携](#) »

[研究シーズ集、教育者要覧](#)



2 地域の学びを支える

こまつ市民大学の開講

小松市、小松商工会議所、まちづくり市民財団、社会福祉協議会と連携し、市民向け講座を開講しています。「地域づくり」「ライフスタイル」「スキルアップ」などのカテゴリーに応じ、本学教員もさまざまな講座を担当しています。



問い合わせ ▶ こまつ市民大学事務局(小松市生涯学習課内)
〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地 TEL:0761-24-8128

社会人教育の推進

●ものづくり人材スキルアッププログラム

地域のものづくり企業の従業員を対象に、ものづくりに必要な知識を一貫して体系的に学ぶ事ができる実践的な教育プログラムを開講しています。目的に合わせた、生産管理技術(Aコース)、工場経営管理(Bコース)の2つの選択コースと、すべての科目を履修する総合コースがあります。

※総合コースは、文部科学省職業実践力育成プログラム(BP)に認定されています。

●資格取得支援講座

品質管理検定(QC検定)など、資格取得を支援しています。

3 地域と世界とつながる

産官学合同シリコンバレー研修

2019年3月に開設したシリコンバレーオフィス(アメリカ カリフォルニア州)を拠点に、学生・地域の企業人を対象とした研修やオンラインセミナーなどを実施しています。シリコンバレーの起業文化などを学び、そこから、地域課題の解決を探ります。



その他

地域への大学の知の還元を目指し、年1回程度、ゲストスピーカーを招き「市民公開フォーラム」を開催したり、地域の伝統的なお祭りや行事、ボランティア活動などの学生参加を促進しています。



公立小松大学基金への寄附のご案内

主に本学の学生修学、教育研究、地域貢献、国際交流、キャンパス環境整備等に係る事業を支援し、より一層の充実を図るために活用させていただきます。

ご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

《主な活用予定》

学生修学環境整備等事業／国際交流事業／教育・研究環境整備等事業／キャンパス環境整備等事業／地域貢献事業／記念事業／学生への経済的支援事業 など

《ご寄附の方法》

- (1) 金融機関窓口(郵便局・ゆうちょ銀行を除く)での振込
※本学所定の振込用紙は、栗津キャンパス(1階)で配布しています。

- (2) 事務局での寄附 栗津キャンパス(1階)へ直接お越しください。現金のみでの受付となります。

- (3) インターネットからのお申込み(クレジットカード決済、コンビニ決済、Pay-easy決済によるお支払い) 本学ホームページからアクセスしてください。

《税法上の優遇措置》

個人からの寄附、法人からの寄附、いずれも税法上の優遇措置を受けることができます。詳しくは、本学ホームページでご確認ください。



寄附についての問い合わせ ▶ 財務課 TEL:0761-48-3101